

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年6月26日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	7月3日(金) 13:00～17:40	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「国際光デー記念シンポジウム」
2	7月8日(水) 13:00～18:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「新しい地熱技術開発と地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」
3	7月10日(金) 13:00～16:30	ハイブリッド (信州大学)	中部地区会議学術講演会「現実への三つの眼差し―自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話―」
4	7月12日(日) 13:00～16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「翼がつなぐ世界―鳥と人の歴史・生態・未来―」
5	7月13日(月) 9:30～16:50	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	国際会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2026『科学の信頼性向上：公共善としての科学の政策立案における役割』」
6	7月15日(水) 13:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」
7	7月18日(土) 13:00～17:30	オンライン開催	公開シンポジウム「第15回基礎法学総合シンポジウム：学術研究の自由と独立性とは何か―歴史・理論・課題―」
8	7月24日(金) 14:00～17:00	ハイブリッド (東京大学)	公開シンポジウム「エイジ・フレンドリーな地域社会の実現―住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的アプローチ―」
9	7月25日(土) 13:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「健康な土壌から健康な社会を！―SDGs への貢献」
10	7月25日(土) 13:00～16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「量子・AI・脳と農芸化学の融合―食品科学の新潮流―」
11	7月25日(土) 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「木材利用促進に学術研究がいかに貢献するか：木材利用って本当にいいの？」
12	7月29日(水) 13:00～16:45	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「材料工学中長期研究戦略」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



～光が拓く科学技術の最前線～

主催 日本学術会議総合工学委員会ICO分科会 共催：国際光年協議会

後援 公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、
一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会

2016年、ユネスコは国際光デーを宣言し、日本学術会議ではこれを記念するシンポジウムをICO分科会の主催で継続して開催してきました。本年も同シンポジウムを開催し、光科学技術がもたらす未来社会や、科学と社会への分野横断的な貢献を展望するとともに、分野の次代を担う新進気鋭の若手研究者間の交流を推進します。

※ICO(International Commission for Optics：国際光学委員会)は、ISC(International Science Council：国際学術会議)のRegular Memberとして、光の科学と技術の発展に向けて活動する国際科学連合です。

日時 令和8年(2026年)7月3日(金) 13:00～17:40

場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34 千代田線乃木坂駅5番出口)

プログラム

(11:00 ポスター受付・展示開始)

(12:00 一般受付開始)

13:00～16:00

司会 馬場 俊彦(横浜国立大学教授)

開会挨拶：

荒川 泰彦(ICO 分科会委員長、東京大学特任教授)

講演1: AIを支える計算基盤と光技術の未来

岡野原 大輔((株)Preferred Networks 代表取締役社長)

講演2: フュージョンエネルギーと光

藤岡 慎介(大阪大学教授)

休憩

司会 美濃島 薫(国際ICO 副会長、電気通信大学教授)

講演3: 光科学による医療の新展開

小川 美香子(北海道大学教授)

講演4: 電波天文観測で迫る宇宙と生命の起源と光の技術

井口 聖(国立天文台教授)

閉会挨拶

松尾 由賀利(法政大学理事副学長・教授)

16:00 全国の80を超えるグループの若手研究者によるポスター発表

17:40 閉会

一般参加 可(参加費無料)

定員300名、参加申込先着順。右記URLより申込: <https://forms.gle/DRGHf3okXwSiAzkz6>

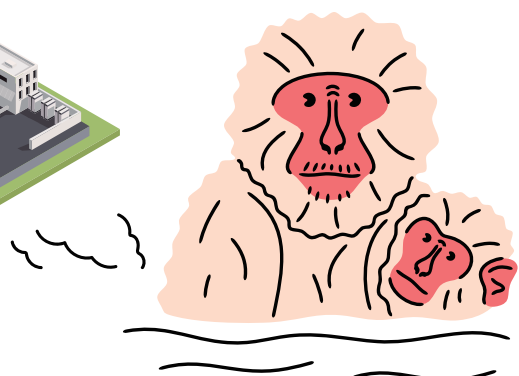
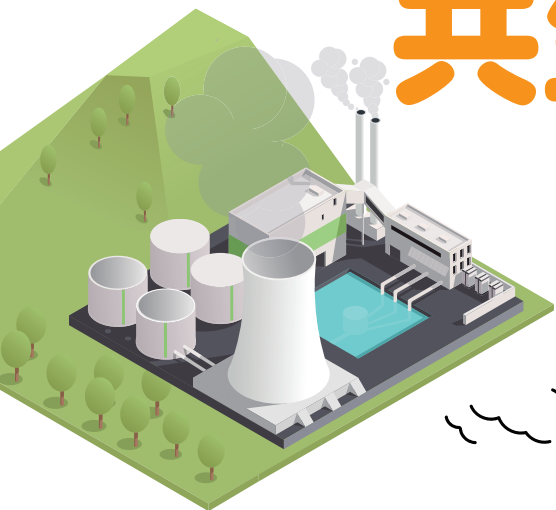
問い合わせ先: 馬場(baba-toshihiko-zm@ynu.ac.jp)





日本学術会議主催学術フォーラム

新しい地熱技術開発と 地熱開発、温泉、環境の 共生に向けて



再生可能エネルギーには地熱、太陽光、風力などがあり、中でも地熱は火山国である日本において高い潜在性を有する。地熱エネルギーは温泉として古くから利用されてきたが、地熱発電は1966年の松川地熱発電所の運転開始以降、1990年代後半まで拡大した。しかし、温泉事業との競合や自然公園との共生といった課題により、その後は停滞している。近年は再生可能エネルギー拡大が重要政策とされ、地熱発電の導入拡大に向けて新技術の開発や環境・温泉との共生の取り組みが進められている。ここでは、新たな地熱技術の開発動向および地熱開発と温泉・環境との共生に関する成功事例を紹介し、日本における地熱エネルギー利用拡大の現状について一般社会の理解を深めることを目的とする。

令和8年

7月8日(水)

13:00~18:00

会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

ハイブリッド開催

参加費無料

お申込み

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0375.html>

申込締切

令和8年7月3日(金) 事前参加登録をお願いします。



主催 日本学術会議

後援 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構、日本地熱学会、一般社団法人日本温泉協会、一般社団法人日本秘湯を守る会、日本地熱協会、NPO 法人地中熱利用促進協会、公益社団法人日本地球惑星科学連合、公益社団法人物理探査学会、地熱研究会、地熱技術開発株式会社、NPO 法人石油ピークを啓蒙し脱浪費社会を目指すもったいない学会

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 Tel. 03-3403-6295



新しい地熱技術開発と 地熱開発、温泉、環境の共生に向けて

コーディネーター

大久保 泰邦（日本学術会議連携会員／地熱技術開発株式会社）

総司会

大野 恵美（日本学術会議連携会員／株式会社 IHI 理事）

スケジュール

13:00 ～ 13:05	趣旨説明
	大久保 泰邦（日本学術会議連携会員／地熱技術開発株式会社）
13:05 ～ 13:35	「今後の地熱開発政策について」
	小林 貴成（経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部地熱資源開発室）
13:35 ～ 14:05	「地域共生型地熱利活用に向けた環境省の取り組みについて」
	松岡 法明（環境省自然環境局 自然環境整備課 温泉地保護利用推進室）
14:05 ～ 14:15	休憩
14:15 ～ 14:45	「温泉事業と地熱開発との共生に向けて」
	佐藤 好億（一般社団法人日本温泉協会副会長／日本秘湯を守る会名誉会長）
14:45 ～ 15:15	「サステナ歓幸地の創造へ」
	加藤 貴之（株式会社元気アップつちゆ代表取締役 CEO）
15:15 ～ 15:45	「秋田県湯沢市のかたつむり山地熱開発プロジェクトの紹介」
	後藤 弘樹（出光興産株式会社資源部）
15:45 ～ 16:15	「岩手県八幡平市の地熱への取組紹介」
	佐々木 靖人（八幡平市市民部まちづくり推進課エネルギー推進係）
16:15 ～ 16:45	「地域コミュニティと共創する熱エネルギー利用システム」 （都合により講演取りやめ）
	藤岡 恵子（日本学術会議連携会員（特任）／株式会社ファンクショナル・フルイッド最高顧問）
16:45 ～ 16:55	休憩
16:55 ～ 17:45	パネルディスカッション「地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」
	司 会
	窪田 ひろみ（一般財団法人電力中央研究所サステナブルシステム研究本部）
	パネラー
	後藤 弘樹（出光興産株式会社資源部）
	西川 信康（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 再生可能エネルギー事業本部特別参与）
	益子 保（益子温泉調査事務所代表）
17:45 ～ 17:55	「まとめ」
	岩城 智香子（日本学術会議連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監）
17:55 ～ 18:00	「閉会の挨拶」
	高田 保之（日本学術会議会員／九州大学特命教授）
18:00	閉 会

※内容の変更のため、プログラムの前倒し等時間変更の可能性がございます。

現実への三つの眼差し

自然科学・社会科学・人文科学 の世界理解をめぐる対話

予測不可能性と不確かさが常態化するVUCA*の時代において、私たちは、単一の視点では捉えきれない複雑で多面的な現実といかに向き合うべきかを問われている。これまで自然科学・社会科学・人文科学は、それぞれ固有の問いと方法にもとづき、世界の異なる側面を解明してきた。しかし今日では、個別の学問領域の垣根を越えた総合知の構築が求められている。

自然科学において、私たちの世界理解は本質的に「近似」や「仮説」に基づく。不完全であることを前提としたこの理解は、単なる限界ではなく、私たちの選択や創造を可能にし、さらには社会の意思決定とも深く結びついている。社会科学としての管理会計研究では、理論的考察とともに、山間部地域に固有のマネジメント課題と向き合うための方法を構築することが課題となっている。一方、人文科学のひとつである仏教学は、文献にもとづいて仏教の哲学的世界観を解明してきたが、仏教が社会に根ざした宗教である以上、その社会へのコミットメントも視野に入れ、社会学的アプローチも行われている。

本企画は、自然科学、社会科学、人文科学という性格の大きく異なる三分野をあえて並置し、それぞれの世界理解の対話を試みる。異なる方法論の背景にある共通の問題意識を共有することで、これからの学術研究における複眼的な現実理解の可能性を探りたい。

*VUCA=Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った造語。将来の予測が困難な、激動の時代を表すキーワード。

令和8年7月10日(金) 13:00
16:30

参加費無料

どなたでも参加できます

申込フォームよりお申し込みください

信州大学 松本キャンパス附属図書館・中央図書館2階セミナー室
長野県松本市旭3-1-1

13:00 ▶ 13:20 **開会挨拶** 信州大学長 **中村 宗一郎**

日本学術会議副会長 **磯 博康**

日本学術会議第二部会員、国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐

13:20 ▶ 13:30 **主催者挨拶** 日本学術会議中部地区会議代表幹事 **高田 広章**

日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授

13:30 ▶ 13:40 **科学者との懇談会活動報告** **松田 正久**

中部地区科学者懇談会幹事長／愛知教育大学名誉教授、元学長

日本学術会議第196回総会を傍聴して **保柳 康一**

中部地区科学者懇談会長長野県幹事／信州大学名誉教授

13:40 ▶ 16:25 **世界は一つに決まるのかー物理と情報から考える現実と選択**

藤田 あき美 信州大学工学部准教授

中山間地域における新たなマネジメントの可能性

ーひと・環境・いとなみから地域の在り方を考えるー

関 利恵子 信州大学経済学部教授

仏教から見た人間の現存在と社会

吉水 千鶴子 日本学術会議第一部会員、筑波大学人文社会系名誉教授、公益財団法人東洋文庫研究部研究員

総合討議(質疑、まとめ)

16:25 ▶ 16:30 **閉会挨拶** **司会** 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 **護山 真也**

日本学術会議連携会員、信州大学人文学部教授

ハイブリッド開催

参加を希望される方は令和8年7月3日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.gle/rwcNG7LFKtEE7W51A>



申込フォーム

お問い合わせ

日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

信州大学総務部総務課

TEL: 0263-37-2112 FAX: 0263-36-6769

主催／日本学術会議中部地区会議

共催／信州大学

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

講師プロフィール

世界は一つに決まるのか — 物理と情報から考える現実と選択



藤田 あき美
信州大学工学部准教授

自然科学において、世界理解は本質的に近似や仮説に基づく不完全なものである。この前提は単なる限界ではなく、選択や創造の条件として機能する可能性がある。投げたボールの軌道やロケットの着地が示すように、自然法則は未来の予測を可能にする。一方で、情報が物理的に実装され、法則のもとで保存・変換されるならば、計算そのものが物理過程として実現されていると捉えられる。このとき予測は、外在的な操作ではなく、物理世界の中で進行する計算として理解される。しかし計算理論が示すように、決定論的な系であっても未来が原理的に予測できない場合が存在する。この予測不可能性は単なる無知ではなく構造的に生じるものであり、そこから不可避に生じる誤りが、知識の更新と新たな選択・創造の契機として理解しうる。

● PROFILE

米国コロンビア大学大学院にて天文物理学のPh.D.取得。信州大学工学部准教授。専門は天文物理学を基盤とした物理と情報の基礎、および科学的認識論。近年は、決定論と計算理論に基づく予測不可能性の問題を軸に、講演・執筆・発信活動を通じて、科学と社会の意思決定の接続やジェンダー、グローバルコミュニケーションといった領域に議論を展開してきた。こうした実践的関心を背景に、多世界解釈における未来の非一意性と選択・創造の関係について理論的考察を進めている。著書に『宇宙思考』『すぐすぎる宇宙・天文の図鑑』。

中山間地域における新たなマネジメントの可能性

— ひと・環境・いとなみから地域の在り方を考える —



関 利恵子
信州大学経法学部教授

人口減少や担い手不足に直面する中山間地域では、多様な関係者が納得できる意思決定の難しさが大きな課題となっています。しかし、こうした現場では「会計的な発想」は敬遠されがちであり、目に見える数字だけでは、人々の豊かな「いとなみ」や地域の文脈を捉えきれない限界があります。本講演では、本来会計とは対極にあると思われがちな地域課題にあえて管理会計の視点を持ち込み、地域を「ひと・環境・いとなみ」のつながりとして捉える新たな試みを提案します。地域に根ざした「いとなみ」を尊重しながらも、様々な思いを一つに繋ぐ「対話の道具」として、これからのマネジメントが果たすべき役割と可能性について展望します。

● PROFILE

明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。2000年10月より信州大学経済学部に着任、現在、経法学部教授。専門は管理会計。これまで、中小企業や農業分野において、管理会計手法の導入支援やアクションリサーチを実践してきた。近年は、長野県の中山間地域をフィールドに、地域のマネジメントや合意形成の研究に注力。地域の「いとなみ」を大切にしながら、持続可能性を支える新たな仕組みづくりを探索している。

仏教から見た人間の現存在と社会



吉水 千鶴子
日本学術会議第一部会員
筑波大学人文社会系名誉教授
公益財団法人東洋文庫
研究部研究員

人文科学(人文学、Humanities)は、主に人間の精神活動によって創出された文化を研究対象とし、哲学・歴史・文学・言語・芸術などの分野を探究する学問である。社会も人間の集団的営みによって作られるものであるから、社会学や人類学とは近接する。私たちが研究対象としての「仏教」と向き合うとき、まず、私たち自身と社会が無常であるというその世界観と向き合うことになる。思想研究においては、このように、研究対象の世界理解というスコープを通して、研究者は間接的に世界を理解することになる。この少し複雑なプロセスから、私たちが学術を通して自分自身と社会と向き合う多様な視点を持てる可能性を考える。

● PROFILE

学習院大学哲学科卒業、東京大学大学院でインド哲学仏教学を、ウィーン大学人文学部でチベット学仏教学を専攻、1994年博士(Doktor der Philosophie)。サンスクリット語、チベット語の文献を用いてインド・チベットの仏教思想を研究する。仏教を「人の生き方についての提案」と考え、多角的分析に取り組む。著書に『チベット仏教』(2026年6月)『西藏仏教宗義研究』、訳書にカール・スネソン著『ヴァーグナーとインドの精神世界』など。

公開シンポジウム

翼がつなぐ世界

—鳥と人の歴史・生態・未来—

2026年 7月12日(日) 13:00 ~ 16:30

参加無料

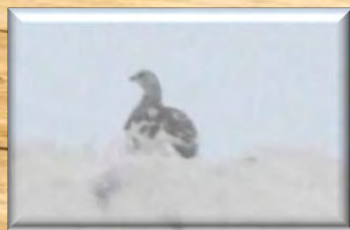
オンライン開催 申し込みフォームからの参加申し込みが必要です



← 申し込みフォームはこちら

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeM9cKuRjz70thMd-5DSE9Oq_WhBFq6NLSzoPGC-kwt_0miQ/viewform

お申込み期限: 2026年7月5日(日)



主 催: 日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会
共 催: 京都大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター

お問い合わせ: 実行委員会 wildlife.science.symposium@gmail.com

プログラム

鳥は古くから人間にとって身近な存在でした。その卓越した飛翔能力と高い移動性は、遠く離れた地域の自然環境にも大きな影響を及ぼしてきました。一方で現代社会においては、感染症の拡散、環境変化による個体数の減少など、鳥をめぐる様々な課題が顕在化しています。本シンポジウムでは、鳥と人との関係を過去から現在にわたって多角的に見つめ直し、歴史的な事例から最新の研究や保全の取組までを紹介します。

挨拶：村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター 教授）

趣旨説明：池谷 和信（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館 名誉教授）

第一部：鳥と人の関わりのこれまで



司会：野林 厚志

（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館グローバル現象研究部・研究部長 教授）



世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥

樋口 広芳（東京大学 名誉教授、慶應義塾大学 訪問教授）



野生のウミウに強くこだわる理由

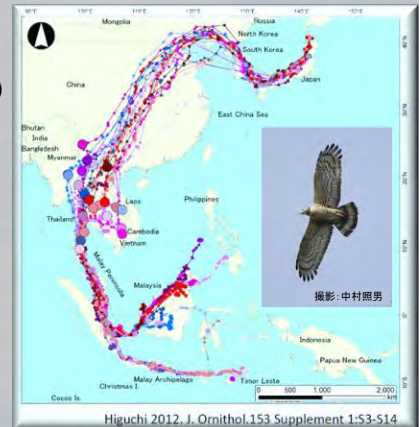
—日本列島における鶺鴒漁の歴史とワイルドライフ

卯田 宗平（国立民族学博物館 教授）



森をめぐるカワウと人との関わり

亀田 佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館 館長）



第二部：鳥と人の関わりのこれから



司会：山崎 由美子

（日本学術会議連携会員、新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科 教授）



鳥インフルエンザとワンヘルス：ヒト・動物・環境の視点から

渡辺 登喜子（大阪大学微生物病研究所感染機構研究部門 教授）



野生復帰による人とコウノトリの関係性の再構築

菊地 直樹（金沢大学先端観光科学研究所 教授）



ライチョウの野生復帰と腸内細菌

牛田 一成（NPO法人 希少動物種保全科学研究センター 理事長）



生殖細胞の保存と活用による希少鳥類の保全

金子 武人（大阪公立大学大学院獣医学研究科 教授）

総合討論

松本 晶子（日本学術会議連携会員 琉球大学国際地域創造学部 教授）

安田 仁奈（日本学術会議連携会員 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

コメント：環境省野生生物課



持続可能な社会のための
科学と技術に関する
国際会議2026

科学の信頼性向上： 公共善としての 科学の政策立案における役割

科学は、誰のために政策に使われるのか。
持続可能な社会のために、科学と政策は共に何ができるのか。

2026年
7月13日 月

ハイブリッド開催

【会場】日本学術会議講堂

(オンライン: zoom、申込者のURL送付)

【言語】英語(日英同時通訳あり)

【定員】対面200名、オンライン600名

【主催】日本学術会議

(国際委員会 持続可能な社会のための
科学と技術に関する国際会議2026分科会)

【後援】

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局／
文部科学省／国際学術会議(ISC)

プログラム詳細は
こちら



参加登録はこちら
参加費無料



託児あり
無料

Program

09:30▶12:05 オープニング・基調講演

基調講演
1



ピーター・グルックマン
国際学術会議(ISC) 会長

基調講演
2



粕谷 祐子
世界政治学会(IPSA) 会長／
早稲田大学政治経済学部教授

基調講演
3



リーゼ・コーステン
アフリカ科学アカデミー会長／
プレトリア大学教授

13:15▶16:30 パネルディスカッション

プレゼン
1



プーナム・ケトラパル・シン
前世界保健機関(WHO) 南東アジア地域事務局長

プレゼン
2



山本 龍彦
慶應義塾大学法務研究科教授／
慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI) 副所長

プレゼン
3



武藤 香織
東京大学医科学研究所教授／
理化学研究所生命医科学研究センター生命医科学倫理とコデザイン研究チーム チームディレクター

お問い合わせ

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2026事務局

TEL 050-9014-8423

E-mail ics2026_secretariat@tobutoptours.co.jp

営業時間: 10:00~17:00(土・日・祝日は休業) ※休業日、営業時間外にお送りいただいたメールへの返信は翌営業日以降となります。

<https://www.scj.go.jp/ja/int/kaisai/jizoku2026/ja/>



日本学術会議主催学術フォーラム

カーボンニュートラル に向けたエネルギー 供給側と需要側の連携

従来、エネルギーシステムの供給側と需要側は、「エネルギーを環境に影響を与えず、安全、安価、安定的に供給すること」、「同じサービスをできるだけ少ない需要で実現する」ことで明確に分担され、またそれぞれの背景となる学術分野が異なることもあり、別々に研究されることが通例でした。しかしながら、エネルギー供給システムの姿は需要側の都市や産業のエネルギーシステムに影響を与えるため、とりわけ寿命の長い都市・建築のエネルギー計画においては将来のエネルギー供給技術の動向を把握することが求められます。一方で、データセンターの増大が原子力発電の普及を必要とするといわれるように、需要の将来の姿がエネルギー供給システムに影響を与えることもあり得ます。更に、近年の変動性再生可能エネルギーの普及は、これまで電力供給側が一手に担ってきた需給調整の役割の一部を需要側がデマンドレスポンスとして担うことを必要とし、また災害時のレジリエンス確保のためには供給側と需要側が補い合う必要があるなど、様々な需要と供給の連携が求められる様にもなっています。日本学術会議の土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会および総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会ではこれまで関連する様々な議論をおこなってきました。今回両分科会が共同で供給と需要の両面からカーボンニュートラル時代のエネルギーシステムのあり方を議論する場として、今回のフォーラムを企画しました。

会場 **日本学術会議講堂**

東京都港区六本木 7-22-34

令和8年

7/15 水

13:00~17:00

ハイブリッド開催 参加費無料

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0377.html>

申込締切 令和8年7月10日(金) 事前参加登録をお願いします。



主催 日本学術会議

後援 エネルギー・資源学会、日本建築学会(予定)、プラズマ・核融合学会、
空気調和・衛生工学会、大阪大学カーボンニュートラル連携機構

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295



カーボンニュートラルに向けた エネルギー供給側と需要側の連携

コーディネーター

下田 吉之 (日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授)

司会

長澤 夏子 (日本学術会議連携会員／お茶の水女子大学基幹研究院教授)

スケジュール

13:00 ~ 13:05	開催挨拶
	森口 祐一 (日本学術会議第三部会員／国立環境研究所名誉研究員／東京大学名誉教授)
13:05 ~ 13:25	趣旨説明、問題提起
	下田 吉之 (日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授)
13:25 ~ 13:55	講演「フュージョンエネルギー開発の現状と実用化への展望」
	山田 弘司 (自然科学研究機構核融合科学研究所所長)
13:55 ~ 14:25	講演「燃料のカーボンニュートラル化を目指してー水素・アンモニア・液体燃料の課題、現状、役割ー」
	矢部 彰 (日本学術会議連携会員／NEDO イノベーション戦略センターサステナブルエネルギーユニットフェロー／福島国際研究教育機構 (F-REI) エネルギー分野長／産業技術総合研究所名誉リサーチャー)
14:25 ~ 14:55	講演「都市・建築とグリッド協調：電化時代における需要側柔軟性の活用」
	岩船 由美子 (日本学術会議連携会員／東京大学生産技術研究所教授)
14:55 ~ 15:25	講演「ZEB, ZEH の動向とエネルギー供給システムとの関係」
	田辺 新一 (日本学術会議連携会員／早稲田大学創造理工学部建築学科教授)
15:25 ~ 15:40	休憩
15:40 ~ 16:50	総合討論
	ファシリテーター
	下田 吉之 (日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授)
	パネリスト
	山田 弘司 (自然科学研究機構核融合科学研究所所長)
	矢部 彰 (日本学術会議連携会員／NEDO イノベーション戦略センターサステナブルエネルギーユニットフェロー／福島国際研究教育機構 (F-REI) エネルギー分野長／産業技術総合研究所名誉リサーチャー)
	岩船 由美子 (日本学術会議連携会員／東京大学生産技術研究所教授)
	田辺 新一 (日本学術会議連携会員／早稲田大学創造理工学部建築学科教授)
	大岡 龍三 (日本学術会議連携会員／東京大学生産技術研究所教授)
	岩城 智香子 (日本学術会議連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監)
16:50 ~ 17:00	総括、閉会挨拶
	高田 保之 (日本学術会議第三部会員／九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所特命教授)
17:00	閉会

学術研究の

自由と独立性とは何か

—歴史・理論・課題—

2026年 7月18日(土) 13:00 – 17:30

オンライン開催 (Zoomで開催予定)

参加登録用ウェブサイト: <https://sites.google.com/view/kisohosympo2026>

開会挨拶 川嶋 四郎 (日本学術会議第一部会員/同志社大学法学部教授)
企画趣旨説明 榊原 秀訓 (日本学術会議連携会員/南山大学大学院法務研究科教授)

報告

司会 大西 楠テア (日本学術会議連携会員/東京大学大学院法学政治学研究科教授)

大河内 美紀 (日本学術会議連携会員/名古屋大学大学院法学研究科教授)
ガバナンスと「学問の自由」—学術体制の改革後の大学から考える

守矢 健一 (大阪公立大学大学院法学研究科教授)
学術研究活動をわらうこと: 歴史的素描を通じた、その理論的意義の推知

紙谷 雅子 (学習院大学名誉教授)
アカデミアにおけるガヴァナンス: アメリカ合衆国の場合

井上 達夫 (東京大学名誉教授)
学術研究を信用失墜させる知性の頹落—研究者はまず自らの身を正せ

佐藤 岩夫 (日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授)
学問の自由と自律的規範形成

三成 美保 (日本学術会議連携会員/追手門学院大学法学部教授、奈良女子大学名誉教授)
ジェンダー視点から問う学術研究の自由と独立性

総合討論

司会 榊原 秀訓 (日本学術会議連携会員/南山大学大学院法務研究科教授)
愛敬 浩二 (日本学術会議連携会員/早稲田大学法学学術院教授)

閉会挨拶 南野 佳代 (日本学術会議第一部会員/京都女子大学法学部教授)

参加無料



上記の参加登録用
ウェブサイトより、
7月14日(火)までに
事前申込みをして
くださいますよう
お願いします

《主催》
日本学術会議法学委員会

《共催》
基礎法学系学会連合
日本法社会学会
日本法哲学会
比較法学会
法制史学会
比較家族史学会
民主主義科学者協会法律部会

連絡先:
基礎法学系学会連合 事務局
E-mail:
kisohogaku@gmail.com

対面・
オンライン
(後日オンデマンド配信有)

エイジ・ フレンドリー な地域社会 の実現

参加無料

対面 | 先着100名
オンライン | 先着1000名
オンデマンド配信



—住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的アプローチ—

令和
8年 7月24日 金 14:00~17:00
13:30受付開始

東京大学
本郷キャンパス
HASEKO-KUMA
HALL

超高齢化が進展するいま、誰一人取り残されことなく、障害の有無にかかわらず、全ての人が安心して生き生きと生活し社会参加できる社会の実現が求められています。個人の生活機能を包括的に捉える視点に加え、環境因子への働きかけやデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が不可欠となっています。高齢者を取り巻く環境を多面的かつデータ駆動型（data-driven）に把握し、科学的根拠に基づいた住環境（都市環境および住宅内環境）、交通、就労環境の整備を通じて、「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly cities and communities）」の実現が求められています。そのために、健康科学、建築工学、環境学、情報学等の学際的連携により研究成果を統合し、産官学民の協働の下、イノベーションを創出することが重要です。本シンポジウムは、日本学術会議 健康・生活科学委員会 高齢者の健康・生活分科会が取りまとめた提言を、事例を交えて詳しくご紹介します。皆様のご参加をお待ちしています。



お申し込み

定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください

対面参加ご希望の方は
このQRコードから
お申し込みください
先着100名



オンライン参加ご希望の方は
このQRコードから
お申し込みください
先着1000名



プログラム

開会挨拶・本分科会の活動報告と見解書の紹介

森山美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）



第1部

司会 玉腰暁子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

『エイジフレンドリーシティについて』

中村桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

『アーバンデザインセンター小田原におけるエイジフレンドリーシティの取り組み』

後藤 純（東海大学建築都市学部 准教授／UDCOD（アーバンデザインセンター小田原）副センター長）

『住民主体による健康長寿に向けた新たなまちづくり』

飯島勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

『広島県呉市（島嶼部）（一社）まめなの取り組み』

更科 安春（（一社）まめな Founder）



第2部

司会 田高悦子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学研究院教授）

『住宅内外の環境改善による高齢者の健康・生活支援』

伊香賀俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／（一財）住宅・建築SDGs推進センター理事長）

『地域の交通と福祉の課題解決を目指すCommunity Driveプロジェクト』

～富山県黒部市と広島県福山市における実証～

羽鳥達也（（株）日建設計 執行役員 設計グループ代表）

『自治体保有データとオープンリソースデータの突合解析による政策立案事例』

佐藤栄治（日本学術会議連携会員（特任）／宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科教授）



総合討論

司会 飯島勝矢（前出）、伊香賀俊治（前出）

指定発言

鹿嶋小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学IDEC国際連携機構プラネタリーヘルスイノベーションサイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

閉会挨拶 荒井秀典（日本学術会議第二部会員／（国研）国立長寿医療研究センター理事長）



対面参加の方

表面左側のQRコードよりお申込みください
お申込み後、後日、対面参加証をメールにてお送りします
当日、印刷して持参または画面にて提示をお願いします
メールが届かない場合、下記メールアドレスまでお問合せください

会場 HASEKO-KUMA-HALL（東京大学本郷キャンパス）

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部11号館1階（正門横の建物）

- 東京メトロ丸ノ内線本郷三丁目駅より徒歩9分

- 都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩9分

- 東京メトロ南北線東大前駅より徒歩4分

マップ 交通アクセス



オンライン参加の方

表面右側のQRコードよりお申込みください
お申込み後、後日、オンライン会議のURLをメールにてお送りします
メールが届かない場合、下記メールアドレスまでお問合せください

オンデマンド配信

シンポジウム終了後に
日本学術会議のHPに
アクセスしてください

イベント情報は
こちら



問い合わせ先

sympo@jsbc.or.jp



日本学術会議 公開シンポジウム

「健康な土壌から健康な社会を！ —SDGsへの貢献—」

2026年7月25日（土）13:00-17:00

日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

Zoomハイブリッド開催

zoom
Webinars



※会場・オンライン共に
講演内容の撮影や録画
はご遠慮ください

13:00 開会の挨拶 信濃卓郎

13:10 はじめに：「土壌の健康とSDGs」 波多野隆介

13:25 「自然資本としての土壌—地域レベルの土地利用の最適化」 藤井一至

13:45 「土壌の健康をチェックする技術開発」 矢内純太

14:05 「環境再生型農業技術のイノベーションの推進（ミクロからのアプローチ）」 竹山春子

14:25 「環境再生型農業技術のイノベーションの推進（マクロからのアプローチ）」 当真 要

14:45 「教育研究機関における発信力の向上」 森 圭子

15:05 「土壌の健康基本法（土壌の健康モニタリング法）」 川嶋四郎

15:40 テーマ「地域の土壌の健康を向上しSDGsを達成するリビングラボを成功させるために」

座長：波多野隆介、犬伏和之

テーマへのコメント

15:45 重金属類汚染対策の観点から 山口紀子

15:55 病害虫防除の観点から 渡辺京子

16:05 リビングラボという考え方：土壌の健康を社会で育てる仕組みについて 若林正吉

16:15 登壇者によるパネルディスカッション

16:50 閉会の挨拶 犬伏和之

司会：川東正幸

申込・参加費：無料

詳細：日本学術会議HP（<https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>）

主催：日本学術会議（農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会）

共催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会Soil Health小委員会、（一社）日本土壌肥料学会

後援：日本土壌微生物学会、日本ペドロロジー学会、一般社団法人日本土壌動物学会、公益社団法人農業農村工学会、日本第四紀学会、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人日本森林学会、土壌物理学会、日本農作業学会、公益社団法人環境科学会、一般社団法人日本作物学会、根研究学会、森林立地学会、日本沙漠学会、日本腐植物質学会、日本熱帯生態学会、日本熱帯農業学会、一般社団法人日本農学会、ムーンショット型農林水産研究開発事業 循環型協生農業プラットフォームコンソーシアム

日本学術会議 農芸化学分科会主催シンポジウム

「量子・AI・脳と農芸化学の融合 —食品科学の新潮流—」

2026年7月25日（土）



参加費無料

事前参加申込制

ウェブ開催 どなたでも参加できます
<https://forms.gle/bev2vJBZjvUZ4oxr6>

13:00 開会

竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学科教授）

13:05 「風味×AI×食品開発：

代替食品のおいしさ設計に活用できる“らしさ”評価AI」

伊藤 圭祐（静岡県立大学食品栄養科学部准教授）

座長：小川 剛伸（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

13:40 「量子×発酵×食成分：フードメタボロミックスの食品機能解析への応用」

福崎 英一郎（崇城大学生物生命学部教授）

座長：秦 洋二（日本学術会議連携会員／月桂冠株式会社専務取締役／製造本部長）

（14:15-14:25 休憩）

14:25 「量子×AI×食品工学：

美味しさを解き明かす食感デジタルツイン—食品構造から知覚へ」

小川 剛伸（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部特任教授）

15:00 「嗅覚と脳活動：機械学習で探る匂い情報の脳内表現」

岡本 雅子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

座長：室田 佳恵子（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院農学研究科教授）

15:35 「食記憶と食嗜好性行動のメカニズム」

喜田 聡（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

座長：竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／
明治大学農学部農芸化学科教授）

16:10 総合討論

座長：東原 和成（日本学術会議連携会員／
東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:30 閉会



後援：公益社団法人日本農芸化学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会



日本学術会議農学委員会林学分科会
公開シンポジウム

木材利用促進に学術研究がいか に貢献するか

木材利用って本当にいいの？

木材は、現代社会にどのような「価値」を提供し得るのか？誰もが信じる「良い素材」という枠を超え、環境負荷の定量評価や資源循環という時間軸での視点から、その真価を徹底的に解き明かす。みんなで未来の木材利用の「最適解」を追求する。

プログラム

司会： 恒次 祐子 日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授

13:00 開会挨拶 杉山 淳司 日本学術会議第二部会員／京都大学名誉教授

13:05 趣旨説明 五十田 博 日本学術会議連携会員／京都大学生存圏研究所教授

13:15 講演1 実務者からみた木造建築 社会実装に必要なこと

小林 道和 (株)竹中工務店 経営企画室 サステナビリティ推進部 シニアチーフエキスパート

13:40 講演2 HWPの炭素貯蔵量と建築利用

加用 千裕 東京農工大学グローバルイノベーション研究院教授

14:05 講演3 建物のLCA—木造建築と他構造との比較—

小林 謙介 県立広島大学生物資源科学部教授

14:30 休憩

14:40 ディスカッション

ファシリテータ：山崎 真理子 名古屋大学大学院生命農学研究科教授

加用 千裕、小林 謙介、小林 道和

高田 克彦 秋田県立大学理事兼副学長、恒次 祐子

15:50 閉会挨拶 香坂 玲 日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授

2026/7/25 SAT

13:00～16:00

オンライン開催

無料・要事前登録

事前登録は下の
QRコードから

主催 日本学術会議 農学委員会林学分科会

共催 日本学術会議 環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会、
環境学委員会環境政策・環境計画分科会、土木工学・建築学委員会、
一般社団法人日本木材学会

後援 環境経済・政策学会、(一社)日本LCA学会、(一社)日本建築学会、
(公社)日本木材加工技術協会、(一社)日本森林学会、林業経済学会

事前登録フォーム

<https://forms.gle/kCwx5jHLdCLmR2Nx9>



お問い合わせ ☒ scj.rangaku@gmail.com

材料工学委員会 材料工学中長期研究戦略分科会

30年後の材料工学を支える基盤学術として必要な課題に関して、「未来の学術振興構想（2023年版）」のグランドビジョンに挙げられた課題から、材料工学に関係するものを抽出し、「材料デザイン革新理論と技術」、「材料プロセス理論と技術」、「材料解析理論と技術」、「材料社会実装理論と技術」、「持続可能社会・環境」の研究を深化させ、統合するための方策、必要性、意義について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

2026

7.29 WED. 13:00~16:45

ハイブリッド開催 一般参加 参加費無料 事前申込不要

現地参加：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7丁目22-34）



Zoom 参加：

<https://zoom.us/j/92735774060?pwd=avLYq7hAUzqVb4HNcfbTklH4wGNshB.1>

ミーティングID: 927 3577 4060

パスコード: tA3Y9e

Program

開会挨拶・趣旨説明：塙 隆夫（大阪大学大学院工学研究科特任教授・
神戸大学大学院医学研究科客員教授、第三部会員）

司会：中野 貴由（大阪大学大学院工学研究科教授、第三部会員）
岸田 晶夫（東京科学大学名誉教授、連携会員）

「社会インフラ、グリーン・エネルギー分野材料工学ロードマップのローリング」

松宮 徹（元大阪電気通信大学監事、特任連携会員）

「デバイス、医療・バイオ材料分野材料工学ロードマップのローリング」

筑本 知子（大阪大学レーザー科学研究所教授、連携会員）

「材料デザイン革新理論と技術（生成AI分野との連携の視点より）」

小山 敏幸（物質・材料研究機構、構造材料研究センター
グループリーダー、連携会員）

「材料プロセス理論と学術」

尾崎 由紀子（大阪大学接合科学研究所招へい教授、第三部会員）

「材料解析理論と技術」

小出 康夫（名城大学大学院理工学研究科教授、連携会員）

「材料分野における持続可能社会・環境」

杉浦 夏子（日本製鉄(株)技術開発本部鉄鋼研究所
リーディングリサーチャー、連携会員）

閉会挨拶：松下 伸広（東京科学大学副学長・物質理工学院教授、連携会員）

連絡先：塙 隆夫（hanawa.met@tmd.ac.jp）

材料工学中長期研究戦略